

第240回～第265回

☆放送時間☆

期間	曜日	時間帯
昭和51年10月4日～ 昭和52年3月28日	月	21時00分～ 21時54分

司会：有島一郎（第240回～265回）

河内桃子（第240回～265回）

語り：奈良岡朋子（第240回～265回）

☆凡例☆

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者 |
| ③曲目（歌唱者） <small>（※）</small> | ④放送概要 |

※出演順が判明している回は、冒頭に太字で（**出演順**）と記入

昭和51年

昭和51年10月4日

①「初競演！おお懐しの愛唱歌」 #240

②高峰三枝子、江利チエミ、中条きよし

③「南の花嫁さん」(高峰)、「南から南から」(江利)、「新雪」(中条)、「しのび泣くブルース」(高峰)、「別れのタンゴ」(高峰)、「おかあさん」(高峰)、「湖畔の宿」(高峰)、「酒場にて」(江利)、「知りすぎたのね」(江利・中条)

④ 今回から有島一郎と河内桃子が司会を担当。

ゲストに高峰三枝子、江利チエミ、中条きよしを迎え、なつかしい名曲、ヒット曲を特集する。高峰、江利が初のデュエット。

第一部は、戦時色濃い中で人々の心を明るくした昭和17年のヒット曲特集。高峰が「南の花嫁さん」、江利が「南から南から」、中条が「新雪」など。

第二部は、高峰のヒット曲コーナーで、「しのび泣くブルース」「別れのタンゴ」「おかあさん」を披露。歌の合間に視聴者が高峰に宛てた亡き母をしのぶ手紙を高峰自身が朗読。

第三部は江利と中条のコーナー。江利が「酒場にて」、二人で「知りすぎたのね」ほか。

昭和51年10月11日

①「絶唱！美空ひばり古賀メロディーを歌う！」 #241

②美空ひばり

③「柔」(美空)、「お島千太郎」(美空)、「江戸の闇太郎」(美空)、「遊侠街道」(美空)、「真実一路」(美空)、「白虎隊」(美空)、「影を慕いて」(美空)、「湯の町エレジー」(美空)、「悲しい酒」(美空)、「恋の曼珠沙華」(美空)、「娘船頭さん」(美空)、「あざみの歌」(美空)

④ 美空ひばりが、おなじみの古賀メロディーをじっくり歌う。

オープニングの「柔」について第一部は、映画、舞台の主題歌特集。「お島千太郎」「江戸の闇太郎」「遊侠街道」「真実一路」など。歌の合間に時代劇の楽しさ、むずかしさなどを、司会の有島一郎、河内桃子と話し合い、詩吟入り「白虎隊」を披露する。

第二部は木村好夫のギター伴奏で「影を慕いて」「湯の町エレジー」「悲しい酒」。

第三部は古賀政男の生い立ちを語りで綴りながら「恋の曼珠沙華」「娘船頭さん」「あざみの歌」ほかを歌う。

昭和51年10月18日

①「決定版！これが艶歌だ名調子！／こまどり・チータの夜の裏町流し唄」 #242

②ディック・ミネ、水前寺清子、フランク永井、こまどり姉妹、小柳ルミ子

③「いっぽんどっこの唄」(水前寺)、「浅草姉妹」(こまどり)、「わたしの城下町」(小柳)、「西銀座駅前」(フランク)、「旅姿三人男」(ディック)、「君恋し」(ディック・フランク・小柳)、「三味線姉妹」(こまどり)、「涙を抱いた渡り鳥」(水前寺)、「昭和枯れすすき」(水前寺)、「緑の地平線」(フランク・小柳)、「ゆかりの歌」(ディック)

④ ディック・ミネ、水前寺清子、フランク永井、こまどり姉妹、小柳ルミ子の出演で、ヒット曲やおなじみの名曲を歌う。

第一部は、各人の持ち歌コーナー。水前寺が「いっぽんどっこの唄」、こまどりが「浅草姉妹」、小柳が「わたしの城下町」、フランクが「西銀座駅前」、ディックが「旅姿三人男」、ディック・フランク・小柳の三人で「君恋し」など。

第二部は“こまどり、チータの夜の裏町流し唄”と題して、こまどりが「三味線姉妹」、水前寺が「涙を抱いた渡り鳥」「昭和枯れすすき」など。歌の合間にそれぞれの無名時代の苦労話などを語り合う。

第三部はディック、フランク、小柳のコーナー。フランクと小柳がデュエットで「緑の地平線」、ディックが「ゆかりの歌」。

昭和51年10月25日

①「ああ涙で綴るわが心の母！にっぽんの母」 #243

②二葉百合子、森進一、田端義夫

③「岸壁の母」（二葉）、「おふくろさん」（森）、「里恋峠」（田端）、「九段の母」（二葉・森・田端）、「夢のゆりかご」（田端）、「赤とんぼ」（田端）、「ふるさとの丘」（田端）、「小雨の丘」（森）、「母恋吹雪」（二葉）

④ それぞれ母ものでヒットを飛ばした二葉百合子、森進一、田端義夫を迎えて”おかあさん”をテーマにした曲を特集。

第一部は三人の持ち歌競演。二葉が「岸壁の母」、森が「おふくろさん」、田端が「里恋峠」。さらに戦時中の代表的母もの歌謡「九段の母」を三人で歌う。

第二部は田端のコーナー。田端が、女の細腕ひとつで子どもたちを育てたという母の思い出を語りながら、母が大好きだったという「夢のゆりかご」「赤とんぼ」を歌い、亡き母にささげる「ふるさとの丘」を披露する。

第三部はかつての宝塚のスター小夜福子が昭和15年に歌ってヒットした「小雨の丘」を森が歌い、続いて本番組のために特に作った浪曲入りの「母恋吹雪」を二葉が歌う。

昭和51年11月1日

①「競演！夜の銀座の恋物語／石原裕次郎・女の演歌に挑戦！」 #244

②石原裕次郎、都はるみ、青江三奈、八代亜紀

③「銀座の恋の物語」（全員）、「東京ブルース」（八代）、「東京夜曲」（青江）、「かりそめの恋」（都）、「赤いグラス」（石原）、「星の流れに」（石原・青江）、「再会」（石原・八代）、「裏町人生」（石原・都）、「二人の世界」（石原）、「雨に咲く花」（青江）、「別れの磯千鳥」（都）

④ 石原裕次郎を中心に都はるみ、青江三奈、八代亜紀の女性演歌トリオの出演でムード歌謡を特集。

第一部は東京の夜をテーマにしたヒット曲特集。四人そろって歌う「銀座の恋の物語」を皮切りに八代が「東京ブルース」、青江が「東京夜曲」、都が「かりそめの恋」、石原が「赤いグラス」。歌の合間に昭和20年代から30年代にかけての銀座風俗などを一同が語り合う。

第二部は”裕次郎・女の演歌に挑戦”というテーマで石原が青江と「星の流れに」、八代と「再会」、都と「裏町人生」をデュエットする。

第三部はラテンムードの伴奏で石原が「二人の世界」、青江が「雨に咲く花」、都が「別れの磯千鳥」を歌う。

昭和51年

昭和51年11月8日

- ①「歌まつり！思い出のビッグヒット大競演！！」 #245
- ②舟木一夫、いしだあゆみ、ぴんから兄弟、ちあきなおみ、伊東ゆかり、弘田三枝子、堺正章、黒沢年男、細川たかし、石川さゆり、新沼譲治、内藤やす子、都はるみ、霧島昇
- ③ **(出演順)**「高校三年生」(舟木)、「ブルーライト・ヨコハマ」(いしだ)、「女のみち」(ぴんから)、「喝采」(ちあき)、「小指の思い出」(伊東)、「人形の家」(弘田)、「街の灯り」(堺)、「旅の夜風」(霧島・都)、「目ン無い千鳥」(霧島・ちあき)、「誰か故郷を想わざる」(霧島)、「やすらぎ」(黒沢)、「心のこり」(細川)、「あなたの私」(石川)、「おもいで岬」(新沼)、「弟よ」(内藤)、「涙の連絡船」(都)
- ④ 川崎市体育館からの録画中継で、霧島昇や今年デビューの新人・新沼譲治ら14人の歌手がそれぞれのヒット曲を披露する。有島一郎の代わりに男性司会者を高島忠夫が務める。
- 第一部はヒット曲特集。舟木一夫「高校三年生」、いしだあゆみ「ブルーライト・ヨコハマ」、ぴんから兄弟「女のみち」、ちあきなおみ「喝采」、伊東ゆかり「小指の思い出」、弘田三枝子「人形の家」、堺正章「街の灯り」。歌の合間にその曲を歌った頃のエピソードを語り合う。
- 第二部は霧島昇のコーナー。都はるみと「旅の夜風」、ちあきと「目ン無い千鳥」をデュエットしたり、高峰三枝子、渡辺はま子、二葉あき子、そして愛妻松原操らとの共演の思い出を語ったりする。視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、岐阜県大野郡の平野しづえさんのリクエストで、霧島の「誰か故郷を想わざる」。
- 第三部は再びヒット曲特集で、黒沢年男「やすらぎ」、細川たかし「心のこり」、石川さゆり「あなたの私」、新沼譲治「おもいで岬」、内藤やす子「弟よ」、都「涙の連絡船」。

昭和51年11月15日

- ①「唄競べ！花の股旅草紙／芸道50年！高田浩吉道中演歌」 #246
- ②高田浩吉、水前寺清子、ちあきなおみ、三沢あけみ、大川栄策
- ③「大江戸出世小唄」(高田・水前寺・ちあき・三沢)、「名月赤城山」(水前寺)、「勘太郎月夜唄」(ちあき)、「妻恋道中」(三沢)、「鴛鴦道中」(高田)、「伊豆の佐太郎」(高田)、「五十三次待ったなし」(高田)、「新妻鏡」(大川・水前寺)、「人妻椿」(大川・三沢・ちあき)
- ④ 芸能生活50周年を迎えた高田浩吉をはじめ、水前寺清子、ちあきなおみ、三沢あけみ、大川栄策が戦前、戦後のヒット曲を歌う。
- 第一部は、股旅演歌特集で、高田が水前寺、ちあき、三沢らと歌う「大江戸出世小唄」を皮切りに、水前寺が「名月赤城山」、ちあきが「勘太郎月夜唄」、三沢が「妻恋道中」、高田が「鴛鴦道中」。
- 第二部は高田のコーナー。高田が彼の映画主題歌などを歌いながら、”歌うスター第一号”だった昔をしのぶ。デビュー当時の主な作品のスチール写真を並べ奈良岡朋子の語りで高田の歩みを紹介。高田が「伊豆の佐太郎」「五十三次待ったなし」などを歌う。
- 第三部は演歌一筋の大川のコーナーで、大川が水前寺と「新妻鏡」、三沢・ちあきと「人妻椿」を披露。

昭和51年11月22日

- ①「決定版・港の艶歌！裏街怨歌！ふるさと演歌！」 #247
- ②北島三郎、青江三奈、藤圭子、森昌子
- ③「あこがれのハワイ航路」（全員）、「あの娘が泣いている波止場」（森）、「連絡船の唄」（藤）、「港シャンソン」（青江）、「波止場気質」（北島）、「ギター仁義」（北島）、「東京流れ者」（藤）、「なみだの操」（青江）、「女心の唄」（青江・藤・北島）、「お月さん今晚は」（森）、「北上夜曲」（青江）、「湖底の故郷」（北島）
- ④ 北島三郎、青江三奈、藤圭子、森昌子の出演で、港、裏街、ふるさとをテーマにしたヒット曲を送る。

第一部は”港の艶歌”特集。全員イキなマドロス・スタイルに身を固め、四人で歌う「あこがれのハワイ航路」を皮切りに森が「あの娘が泣いている波止場」、藤が「連絡船の唄」、青江が「港シャンソン」、北島が「波止場気質」。

第二部はスナック風のセットで”裏街怨歌”特集。北島が「ギター仁義」、藤が「東京流れ者」、青江が「なみだの操」、青江、藤、北島の三人で「女心の唄」など。北島や藤が”流し”時代の思い出を披露し、演歌の心を語り合う。

第三部は”ふるさと演歌”特集で、森が「お月さん今晚は」、青江が「北上夜曲」、北島が視聴者リクエストの”思い出の歌”で「湖底の故郷」を歌う。

昭和51年11月29日

- ①「決定版！村田、こまどり、田端、演歌三番勝負！／こまどり姉妹涙の放浪記」 #248
- ②田端義夫、村田英雄、こまどり姉妹、牧田栄
- ③「皆の衆」（村田）、「浅草姉妹」（こまどり）、「海のジプシー」（田端）、「王将」（村田）、「柔道一代」（村田）、「姿三四郎」（村田）、「ソーラン渡り鳥」（こまどり）、「ふたりぼっち」（こまどり）、「幸せになりたい」（こまどり）、「玄海ブルース」（田端）、「別れ船」（田端）、「島の船唄」（田端）
- ④ 田端義夫、村田英雄、こまどり姉妹が、それぞれのワンマンショー形式で演歌を歌いまくる。

オープニングはそれぞれのヒット曲競演で、村田が「皆の衆」、こまどりが「浅草姉妹」、田端が「海のジプシー」。

第一部は村田のショーで「王将」「柔道一代」「姿三四郎」を歌い、合間に人生の”勝負どき”について村田と司会の有島一郎、河内桃子らが語り合う。

第二部は、こまどりのショー。姉妹の風雪の人生を振り返る奈良岡朋子の語りをバックに「ソーラン渡り鳥」「ふたりぼっち」「幸せになりたい」などを披露。

第三部は田端のショー。「玄海ブルース」「別れ船」など、おなじみのヒット曲を歌う。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、田端が戦死した親友の義姉・牧田栄さんと対面、亡き友に心を込めてデビュー曲「島の船唄」を捧げる。

昭和51年

昭和51年12月6日

- ①「250回記念特集！歌まつり・花の紅白大合戦！（前）」 #249
- ②ディック・ミネ、曾根史郎、三浦洸一、バーブ佐竹、一節太郎、黒沢明とロス・プリモス、黒木憲、菅原都々子、扇ひろ子、日吉ミミ、小川知子、花村菊江、三沢あけみ、美ち奴、都家かつ江、月の家円鏡
- ③不明
- ④ 今週と来週の二回にわたり、放送250回を記念して、男女14人ずつ合計28人の歌手が紅白に分かれ、一世を風靡したヒット曲を競演する。応援団長は、都家かつ江、月の家円鏡。
今回の出演は、白組＝ディック・ミネ、曾根史郎、三浦洸一、バーブ佐竹、一節太郎、黒沢明とロス・プリモス、黒木憲。紅組＝菅原都々子、扇ひろ子、日吉ミミ、小川知子、花村菊江、三沢あけみ、美ち奴。

昭和51年12月13日

- ①「250回記念特集！歌まつり・花の紅白大合戦！（後）」 #250
- ②青木光一、藤島桓夫、北原謙二、三船浩、若原一郎、大下八郎、藤山一郎、榎本美佐江、松山恵子、豆千代、並木路子、池真理子、大津美子、松島詩子
- ③「十三夜」（不明）、「リンゴの唄」（不明）、「柿の木坂の家」（不明）、「おんなの宿」（不明）、「若いふたり」（不明）
- ④ 先週に引き続き、放送250回記念「歌まつり・花の紅白大合戦！」の後編を放送。実力歌手14人が紅白に分かれて一世を風靡したヒット曲を競演する。
出演は、白組＝青木光一、藤島桓夫、北原謙二、三船浩、若原一郎、大下八郎、藤山一郎。紅組＝榎本美佐江、松山恵子、豆千代、並木路子、池真理子、大津美子、松島詩子。

昭和51年12月20日

- ①「演歌で勝負！森、五木、水前寺女ごころを歌う／熱唱！島倉千代子愛の二重唱」 #251
- ②森進一、五木ひろし、水前寺清子、島倉千代子
- ③「花と蝶」（森）、「夜空」（五木）、「涙を抱いた渡り鳥」（水前寺）、「待っている女」（五木）、「年上の女」（森）、「夢は夜ひらく」（森・五木・水前寺）、「この世の花」（島倉）、「愛のさざなみ」（島倉・五木）、「新妻鏡」（島倉・森）、「恋しているんだもん」（島倉）
- ④ 森進一、五木ひろし、水前寺清子、島倉千代子の顔合わせで”女ごころ”をテーマにしたヒット曲や新曲の数々を特集。
オープニングはヒット曲競演で森「花と蝶」、五木「夜空」、水前寺「涙を抱いた渡り鳥」。
第一部は”女ごころ”をうたった演歌特集。五木「待っている女」、森「年上の女」、水前寺を加えた三人で「夢は夜ひらく」。歌の合間に独身の三人が”結婚”について語る。
第二部は島倉の特集。「この世の花」のあと、五木と「愛のさざなみ」、森と「新妻鏡」を共演、「恋しているんだもん」で締めくくる。司会の有島一郎が男性の立場から見た島倉の印象を語り、島倉が現在の心境や結婚観などを語る。

昭和51年12月27日

- ①「さよなら昭和51年・年忘れ夢の紅白歌合戦」 #252
- ②島倉千代子、二葉百合子、ちあきなおみ、水前寺清子、青江三奈、藤圭子、こまどり姉妹、田端義夫、三橋美智也、村田英雄、春日八郎、舟木一夫、北島三郎、殿さまキングス
- ③「函館の女」(北島)、「ソーラン渡り鳥」(こまどり)、「はしご酒」(藤)、「なみだの操」(殿さま)、「伊勢佐木町ブルース」(青江)、「三百六十五歩のマーチ」(水前寺)、「四つのお願い」(ちあき)、「高校三年生」(舟木)、「別れの一本杉」(春日・三橋)、「おさげと花と地蔵さんと」(春日・三橋)、「星空に両手を」(不明)、「岸壁の母」(不明)、「大根月夜」(不明)
- ④ 歌謡界を支える実力歌手男女14人(組)が紅白7人(組)ずつに分かれ、パーティー形式できわめつけヒット曲を競演する。
- 出演は紅組＝島倉千代子、二葉百合子、ちあきなおみ、水前寺清子、青江三奈、藤圭子、こまどり姉妹。白組＝田端義夫、三橋美智也、村田英雄、春日八郎、舟木一夫、北島三郎、殿さまキングス。

昭和52年1月3日

- ①「新春特集「熱唱!美空ひばり私が選んだ” につぼんの歌” ベスト10!」」 #253
- ②美空ひばり
- ③「花笠道中」(美空)、「三味線マドロス」(美空)、「ひばりの佐渡情話」(美空)、「リンゴ追分」(美空)、「別れのブルース」(美空)、「無情の夢」(美空)、「くちなしの花」(美空)、「二人でお酒を」(美空)
- ④ 美空ひばりが持ち歌にこだわらず、自分で選んだ愛唱歌ベスト・テンを歌う。
- 第一部は美空自身の往年のヒット曲メドレーで、「花笠道中」「三味線マドロス」「ひばりの佐渡情話」「リンゴ追分」。
- 第二部は美空が選んだ愛唱歌ベスト・テン。「別れのブルース」「無情の夢」「くちなしの花」「二人でお酒を」ほかを歌い、それぞれの歌にちなむ思い出や好きな理由を司会の有島一郎、河内桃子と語り合う。

昭和52年1月10日

- ①「父子競演!三波春夫・豊和歌と踊りの新春絵巻!」 #254
- ②三波春夫、三波豊和、朝丘雪路、宮川泰
- ③「雪の渡り鳥」(春夫・豊和)、「鴛鴦道中」(朝丘・春夫)、「花笠道中」(朝丘・豊和)、「大根無情」(春夫)、「連獅子」(春夫・豊和)、「明治一代女」(朝丘)、「黒田の武士」(春夫・豊和)、「豪商一代紀伊国屋文左衛門」(春夫)
- ④ 三波春夫と新進歌手の長男豊和が、テレビで初めて歌い踊る。親子の熱演ぶりが見どころ。また、朝丘雪路がからむ異色の顔合わせで送る。
- オープニングは三波親子の「雪の渡り鳥」。続いて朝丘が春夫と「鴛鴦道中」、豊和と「花笠道中」を競演。次は、豊和の司会で春夫が「大根無情」を歌う。
- 第二部は三波親子の日本舞踊「連獅子」。さらに朝丘の歌と踊りで「明治一代女」、春夫の歌、豊和の素踊りで「黒田の武士」。
- 第三部は、春夫の浪曲入り長編歌謡曲「豪商一代紀伊国屋文左衛門」。

昭和52年

昭和52年1月17日

- ①「任侠演歌！鶴田、北島、水前寺男の花道」 #255
- ②鶴田浩二、北島三郎、水前寺清子
- ③「人生劇場」（鶴田・北島・水前寺）、「男の純情」（鶴田）、「傷だらけの人生」（鶴田）、「東京流れ者」（水前寺）、「どうどうどっこの唄」（水前寺）、「唐獅子牡丹」（北島）、「仁義」（北島）、「赤と黒のブルース」（鶴田）、「好きだった」（鶴田・北島）、「街のサンドイッチマン」（水前寺）、「ハワイの夜」（北島）
- ④ 鶴田浩二を中心に、北島三郎、水前寺清子が任侠演歌の数々を披露する。鶴田はリクエストで軍歌も歌う。

第一部は”男の演歌”特集。三人共演の「人生劇場」を皮切りに鶴田が「男の純情」「傷だらけの人生」、水前寺が「東京流れ者」「どうどうどっこの唄」、北島が「唐獅子牡丹」「仁義」を歌う。歌の合間に鶴田が学生時代の思い出などを語る。

第二部は鶴田のヒット曲コーナー。鶴田が「赤と黒のブルース」、鶴田と北島が「好きだった」、水前寺が「街のサンドイッチマン」、北島が「ハワイの夜」を歌う。それぞれの歌にちなむエピソードや思い出を鶴田が語る。

昭和52年1月24日

- ①「お手を拝借！お座敷ソングで今晚は！」 #256
- ②都はるみ、春日八郎、橋幸夫、小柳ルミ子、久保幸江
- ③「お富さん」（春日・橋・都・小柳）、「ゲイシャワルツ」（都）、「真室川音頭」（橋）、「まつの木小唄」（小柳）、「トンコ節」（久保・春日）、「ヤットン節」（久保・春日）、「瀬戸の花嫁」（小柳）、「潮来笠」（橋）、「北の宿から」（都）
- ④ 春日八郎、橋幸夫、都はるみ、小柳ルミ子、それに昭和26年「トンコ節」で一世を風靡した久保幸江という顔ぶれでにぎやかなお座敷ソングを中心に送る。

第一部はお座敷ソング特集。春日、橋、都、小柳の四人共演による「お富さん」を皮切りに、都が「ゲイシャワルツ」、橋が「真室川音頭」、小柳が「まつの木小唄」、久保が春日と共演で「トンコ節」「ヤットン節」などを歌い、当時のエピソードや近況などを語る。

第二部は小柳が「瀬戸の花嫁」、橋が「潮来笠」を歌い、都がヒット曲「北の宿から」を歌う。

昭和52年1月31日

- ①「絶唱！母の詩母の涙！／三橋美智也汗と涙の青春時代／島倉千代子ただいま特訓中」 #257
- ②島倉千代子、三橋美智也、二葉百合子、二葉の長男
- ③「岸壁の母」（二葉）、「東京だヨおっ母さん」（島倉）、「母恋吹雪」（三橋）、「母の便り」（二葉）、「ソーラン節」（三橋）、「津軽じょんがら節」（三橋）、「酒の苦さよ」（三橋）、「おんな船頭唄」（三橋）、「名月赤城山」（島倉）、「裏町人生」（島倉）、「わたしの城下町」（島倉）
- ④ 島倉千代子、三橋美智也、二葉百合子の顔合わせで、母をうたったヒット曲を中心に送る。

第一部は”母のうた”特集で、二葉が「岸壁の母」、島倉が「東京だヨおっ母さん」、三橋が「母恋吹雪」を歌い、それぞれ母についての思い出や、エピソードを語る。続いて二葉の長男が”母親二葉

百合子”をつづった作文を朗読し、二葉がこれにこたえて「母の便り」を歌う。

第二部は”三橋美智也汗と涙の青春時代”と題して三橋の生い立ちから苦闘時代を紹介。曲は「ソーラン節」「津軽じょんがら節」「酒の苦さよ」「おんな船頭唄」ほか。三橋の津軽三味線が聞きもの。

第三部は”島倉千代子ただいま特訓中”と題し二月のロングリサイタルに備えてスケートの特訓をする島倉の姿をスチール写真などで紹介する。曲は島倉の持ち歌以外の「名月赤城山」「裏町人生」「わたしの城下町」ほか。

昭和52年2月7日

- ①「絶唱！美空ひばりわたしが選んだ” につぼんの歌” ベストテンパートⅡ」 # 258
- ②美空ひばり
- ③「昭和枯れすすき」(美空)、「あこがれのハワイ航路」(美空)、「北の宿から」(美空)、「おふくろさん」(美空)、「おんなの朝」(美空)、「九段の母」(美空)、「さすらい」(美空)、「ここに幸あり」(美空)、「なみだ船」(美空)、「ひとり旅」(美空)、「港町十三番地」(美空)、「リンゴ追分」(美空)、「悲しい酒」(美空)
- ④ 一月三日に、美空ひばりが”私がえらんだにつぼんの歌ベストテン”で持ち歌以外の愛唱歌を特集したが、これはその続編。演歌からフォーク調までこなすひばりの歌唱力がみもの。
曲は、「昭和枯れすすき」「あこがれのハワイ航路」「北の宿から」「おふくろさん」「おんなの朝」「九段の母」「さすらい」「ここに幸あり」「なみだ船」「ひとり旅」。それぞれの曲について、ひばりがどうして好きなのか、いつどこで歌うのかなどを司会の有島一郎、河内桃子らと語り合う。
他に持ち歌の「港町十三番地」「リンゴ追分」「悲しい酒」などを歌う。

昭和52年2月14日

- ①「あれから30年！思い出の歌謡ベストテン！！昭和22年度ヒットパレード」 # 259
- ②都はるみ、水前寺清子、春日八郎、内山田洋とクール・ファイブ、青江三奈
- ③「啼くな小鳩よ」(都)、「誰か夢なき」(都)、「雨のオランダ坂」(水前寺)、「とんがり帽子」(水前寺)、「夜のプラットホーム」(春日)、「夢淡き東京」(春日)、「夜霧のブルース」(クール)、「山小舎の灯」(クール)、「港が見える丘」(青江)
- ④ 三十年前の昭和22年のヒット曲ベスト・テンを特集する。
都はるみが「啼くな小鳩よ」「誰か夢なき」、水前寺清子が「雨のオランダ坂」「とんがり帽子」、春日八郎が「夜のプラットホーム」「夢淡き東京」、内山田洋とクール・ファイブが「夜霧のブルース」「山小舎の灯」、青江三奈が「港が見える丘」などを歌い、歌にちなむエピソードや、この年の事件(ゼネスト中止命令、六・三制教育施行、第一回参議院選挙、憲法施行、フジヤマのトビウオ古橋選手大活躍)などを語り合う。

昭和52年2月21日

- ①「競演・波止場演歌！夜の霧笛もむせびなく港の恋の物語」 # 260
- ②田端義夫、橋幸夫、森昌子、五木ひろし、芥川隆行

昭和52年

- ③ 「長崎から船に乗って」(五木)、「玄海ブルース」(田端)、「連絡船の唄」(森)、「アメリカ通いの白い船」(橋)、「別れのブルース」(五木)、「上海帰りのリル」(森)、「女のみち」(田端)、「北の宿から」(田端)、「ふるさとの灯台」(田端)
- ④ 田端義夫、橋幸夫、森昌子、五木ひろしを迎え、波止場もの、マドロス演歌の数々を、その歌にちなむエピソードなどを織り込んで送る。
- 第一部は五木の「長崎から船に乗って」を始め、田端が「玄海ブルース」、森が「連絡船の唄」、橋が「アメリカ通いの白い船」などを歌う。
- 第二部は芥川隆行の語りを入れたヒット曲特集で、五木が「別れのブルース」、森が「上海帰りのリル」。
- 第三部では田端が独特の田端ブシで「女のみち」と「北の宿から」を披露。視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、田端の「ふるさとの灯台」。

昭和52年2月28日

- ① 「艶歌大競演！さすらいの旅情を歌う」 #261
- ② ディック・ミネ、森進一、フランク永井、ちあきなおみ、舟木一夫
- ③ 「襟裳岬」(森)、「羽田発7時50分」(フランク)、「北国の街」(舟木)、「北帰行」(不明)、「長崎エレジー」(ちあき)、「雨の酒場で」(フランク)、「アイルランドの娘」(ディック)、「港町ブルース」(森)
- ④ ディック・ミネ、森進一、フランク永井、ちあきなおみ、舟木一夫を迎え、旅情や別れをテーマにした歌を特集する。
- 第一部は旅情演歌特集で、森が「襟裳岬」、フランクが「羽田発7時50分」、舟木が「北国の街」などを歌う。
- 第二部は”ディックの歌うスナック”で、ディックが酒場のマスター、フランク、ちあきらが客にふんしてディックのヒット曲を歌う。曲はちあきが「長崎エレジー」、フランクがディックのものまねで「雨の酒場で」など。最後に、ディックがギターを抱えて「アイルランドの娘」を披露する。
- 視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、森の「港町ブルース」。

昭和52年3月7日

- ① 「笹みどり涙のカムバック！！／根性演歌！花の人生男ぶし／初公開！村田・二葉夫婦浪曲」 #262
- ② 村田英雄、二葉百合子、畠山みどり、殿さまキングス、笹みどり
- ③ 「人生劇場」(村田・二葉・畠山)、「いっぽんどっこの唄」(殿さま)、「出世街道」(畠山)、「ソーラン節」(畠山)、「ちゃっきり節」(二葉)、「鹿児島小原節」(村田)、「下町育ち」(笹)、「足摺岬」(笹)、「壺坂霊験記」(二葉・村田)
- ④ 村田英雄、二葉百合子、畠山みどり、殿さまキングス、笹みどりを迎え、”根性演歌”、”民謡大会”を送る。
- 第一部は根性演歌特集。村田、二葉、畠山の「人生劇場」、殿さまキングスの「いっぽんどっこの唄」、畠山の「出世街道」など。

第二部は民謡特集で、畠山の「ソーラン節」、二葉の「ちゃつきり節」、村田の「鹿児島小原節」など。

第三部は、クモ膜下出血という重病で、長い間闘病生活を送っていた笹がすっかり回復、カムバック後、テレビの歌番組に母親と一緒に初登場、入院中の心境や今後の抱負などを語る。また、視聴者のリクエストによる「下町育ち」と新曲「足摺岬」を披露する。同じ病気で倒れ、最近カムバックした千秋実からの回復祝いのメッセージフィルムをじっとこらえて聞いていた彼女だが、新曲「足摺岬」を歌うところではたまたま泣き出してしまう一幕もあった。

続いて二葉と村田が、お里・沢市夫婦を演じる掛け合い浪曲「壺坂霊験記」のサワリの部分を熱演。

昭和52年3月14日

①「北島、五木、ふるさと慕情！／青江、八代おんな未練ぶし！／本日開店サブちゃんの包丁一本！！」

2 6 3

②北島三郎、五木ひろし、青江三奈、八代亜紀、西川峰子

③「帰ろかな」（北島）、「ふるさと」（五木）、「アカシヤの雨がやむとき」（青江）、
「雨がやんだら」（八代）、「わたし祈ってます」（青江・八代・西川）、「月の法善寺横町」（北島）、
「母の手」（五木）

④ 北島三郎、五木ひろし、青江三奈、八代亜紀、西川峰子を迎え、”ふるさと慕情”や”男に去られた女の心情”を歌ったヒット曲を特集。

第一部は”北島、五木ふるさと慕情”で、北島が「帰ろかな」、五木が「ふるさと」などを、故郷の思い出話を交えて歌う。

第二部は”青江、八代おんな未練ぶし”。青江が「アカシヤの雨がやむとき」、八代が「雨がやんだら」、西川を加えた三人で「わたし祈ってます」など。

第三部は”本日開店！サブちゃんの包丁一本”で、北島が寿司屋の板前、青江と五木が客などに扮し、ユーモラスなやりとりを交わしながら、北島が「月の法善寺横町」などを披露する。北島は「さぶちゃん寿司」を開店、「映画などでちょっとやったことはあるが、こんなに本格的にやるのは初めて」とうれしそう。スタイルは本物以上だが、肝心の寿司の方は、おにぎりに近い出来栄え。仕方なくマイクを握り、得意の演歌……。一日板前が至極気に入ったご本人「歌うより楽しい。毎回やろう」と、しきりにスタッフに訴えていたが、残念ながら、おあとの計画はまだないという。

視聴者による思い出のリクエストは、五木の「母の手」。

昭和52年3月21日

①「歌まつり！特集・春だ！艶歌だ！大行進」 # 2 6 4

②伊東ゆかり、松尾和子、五月みどり、青山和子、ぴんから兄弟、三条正人、美川憲一

③「恋のしずく」（伊東）、「君は心の妻だから」（三条）、「釧路の夜」（美川）「誰よりも君を愛す」（松尾）、
「おひまなら来てね」（五月）、

④ 伊東ゆかり、五月みどり、松尾和子、ぴんから兄弟、三条正人らが登場、ヒット曲の数々と”しりとり歌合戦”を披露する。

伊東が「恋のしずく」、三条が「君は心の妻だから」、美川憲一が「釧路の夜」、松尾が「誰よりも君

昭和52年

を愛す」を歌った後、近くアメリカに移住する五月が「おひまなら来てね」を披露する。

続いて”しりとり歌合戦”に移り、男性軍、女性軍にわかれ、どちらがたくさん歌えるかを競う。

昭和52年3月28日

- ①「歌の饗宴！春一番・演歌花ざかり」 #265
- ②藤圭子、都はるみ、春日八郎、内山田洋とクール・ファイブ、こまどり姉妹、三遊亭小圓遊
- ③「惚れちゃったんだヨ」（都）、「アリュージョン小唄」（こまどり）、「赤いランプの終列車」（春日）、「朧月夜」（春日）、「あの子はだあれ」（クール）、「バラが咲いた」（藤）
- ④ 都はるみ、内山田洋とクール・ファイブ、藤圭子、こまどり姉妹、春日八郎を迎え、スタジオの満開の桜の下で、華やかな歌の饗宴を繰り広げる。

第一部は持ち歌コーナーで、都の「惚れちゃったんだヨ」、こまどりの「アリュージョン小唄」、春日の「赤いランプの終列車」など。

第二部は花にちなんだ曲のメドレーで、春日が「朧月夜」、クール・ファイブが「あの子はだあれ」、藤が「バラが咲いた」などを歌う。

第三部はゲストの三遊亭小圓遊が、花見をテーマにした落語の話題や、小噺などを披露した後、思い出に残る花の歌をリクエストする。